

令和7年4月30日(水)

校長室より⑩



こんにちは。

今週は、間に1日お休みがあるせいで、曜日の感覚が鈍っている感

じがします。今日は休み明けなので月曜日かと思ったら、水曜日でした。

1年生の教室に行くと、画用紙で「鯉のぼり」を作っていました。鱗のひとつひとつに色を塗って、丁寧に仕上げていました。鯉のぼりには、次のような意味があるそうです。(Information Room 『to』ホームページ参照)



こいのぼりが誕生したのは江戸時代(1603~1868年)にさかのぼり、端午(5月5日)は江戸幕府の重要な式日でした。もともと日本では、昔から男児が産まれると、家紋のついた「のぼり」という旗を立てる風習があり、かつて「のぼり」には金太郎・武者絵なども描かれていたようですが、江戸中期になって庶民のアイディアでこいのぼりが誕生しました。

中国に古くから伝わる「登竜門」(鯉が滝をのぼるお話)の伝説に見立て、男児が未来、出世できるように「竜門の滝を上りきった鯉が、竜になるように、わが子も健康に育ち、将来は大きく出世してほしい」と願を込めて「のぼり」に鯉の絵を描くようになりました。

はじめは黒い鯉を1匹描くだけのものだったのですが、時代を経て家族をイメージした赤い鯉・小さい鯉も加わっていき現在のようないろんな鯉が連なる形のこいのぼりに変わっていききました。また、男児が誕生すると、当時は乳児死亡率も高かったことから、親は「我が家に男の子が生まれました。どうぞお守りください」と天の神様に伝えて守ってもらおうという魔除けの意味を込めて、吹き流しや回転球・矢車といったものも飾られるようになりました。



昔は、男の子のいる家の庭やマンションのベランダなどで鯉のぼりを見かけましたが、最近ではほとんど見なくなりました。

みんなのおうちにはありますか？うちは、押し入れの奥にあるはずです。